

科目名称(Course Title)				担当教員(Instructor)	
情報処理論 I				神谷 達夫	
開講学期 (Semester)	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無 (Maximum Enrollment)	授業公開 (Workshop Class)
前学期	2 単位	1 年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講
授業の概要(Course Description)					
<p>現代社会では、情報処理技術があらゆる場面で活用されている。この情報処理技術を使いこなすためには、コンピュータの構成と仕組みや情報処理技術がもたらした社会の変化について広く理解することが必要である。この講義では、一般教養として、情報技術と現代社会の関わりを学び、情報処理技術が企業・公共機関・医療・教育などの分野でどのように活用されているかを学習し、情報処理技術の基礎を習得する。</p> <p>情報処理論の講義は、I と II に分かれている。本講義は、データの表現方法やコンピュータの構成、ソフトウェアの動作などの主に基礎的技に関する部分を扱う。</p> <p>使用テキストは、科目「情報処理論 II」で使用するものと同じである。</p>					
授業の到達目標(Course Objectives)					
<p>大学生として必要な情報処理の知識を学び、その応用方法を理解することを目標としている。そのうえで、以下の3点を最終到達目標とする。</p> <p>(1) 数値や記号などの情報のコード化やコンピュータの基本動作を説明できる。</p> <p>(2) プログラムの動作とその記述方法について理解し、説明できる。</p> <p>(3) 上記2点が応用できる。</p>					
授業計画(Course Schedule)					
第 1 回	ガイダンス	講義の進め方と講義の概要説明			
第 2 回	アナログとデジタル	アナログ・デジタル・符号化・復号化	1. 1		
第 3 回	情報の基本単位ビット	ビット・バイト・ワード	1. 2		
第 4 回	情報のコード化	コード体系・アスキーコード・Unicode	1. 3		
第 5 回	情報のコード化	10進法・2進法・16進法・基数変換	1. 3		
第 6 回	デジタルデータの記録	光学メディア・フラッシュメモリ	1. 4		
第 7 回	コンピュータの構成	入力装置・出力装置・演算装置・記憶装置	2. 1		
第 8 回	ハードウェア	CPU・メモリ・ハードディスク	2. 2, 2. 3		
第 9 回	コンピュータの種類	PC・スパコン・汎用大型・サーバ	2. 4		
第 10 回	ソフトウェアとは	OS・アプリケーション・OSS	2. 5～2. 13		
第 11 回	プログラミングとは	機械語・プログラミング言語・コンパイル	2. 14		
第 12 回	プログラミングの実際	コンパイラ・インタプリタ	2. 14		
第 13 回	デジタルコンテンツとは	音声・音楽再生・オープンデータ	3. 1, 3. 2		
第 14 回	デジタルコンテンツの権利	画像・動画・著作権・肖像権	3. 3, 3. 4		
第 15 回	まとめ				
授業時間外学習(Supplementary Activities)					
<p>教科書は必ず購入し、ノート・筆記用具を持参しなければ欠席扱いとする。毎回、小テストを受けて、各自で理解度を確認する。小テストでは、講義内容に関連した課題が出る。講義を良く聞いて理解していれば、その課題はできるが、使用テキストで、下記のキーワードを中心にして、予習・復習しておくこと。</p>					

成績評価の方法と基準(Grading)	
評価方法 (割合)	評価基準
期末試験 (80%) レポート・課題提出 (20%)	秀：講義で扱った情報処理の知識とその応用方法を論理的に説明でき、その知識を応用できる  優：講義で扱った情報処理の知識とその応用方法を論理的に説明できる  良：おおよその説明はできており、かつ、簡単な計算等はできる  可：簡単な計算等はできる
テキスト (Textbook)	【書名】 文系学生がまなぶ情報学 【著者】 大内 東  【出版社】 コロナ社 【出版年】 2012年
参考書・資料等 (Supplementary Reading)	講義中に参考文献を紹介する
備考 (Other Information)	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	電子メールによる。 kamitani-tatsuo@fukuchiyama.ac.jp